

# 東大和三中だより

平成30年10月5日

10月号(No.6)

発行 東大和市立第三中学校

〒207-0016 東大和市仲原2-7

TEL 042-564-5411

きゅうきょく

## 究極のポジティブシンキング

東大和市立第三中学校長 井上 敬夫

女子プロテニスプレーヤーの大坂なおみ選手が、全米オープン大会で優勝したニュースが大きな話題になりました。決勝の相手が地元のアメリカの人気選手であり、試合中に審判の判定を巡ってもめたこともあって、決勝戦は騒然とした中で行われた点が世界中で議論の対象になったのは、記憶に新しいです。

そんな中、周囲の喧噪<sup>けんそう</sup>を気にせず、最後まで自分のプレーに集中して見事に勝利を収めた大坂選手の姿が多くの人に感動を与えてくれました。元々、大坂選手は、素質は抜群ながら試合中に気分のムラがプレーに表れて、あっけなく負けてしまうことも多かったと言われています。そんな大坂選手が全世界の注目する全米オープン決勝戦で、なぜ冷静な試合運びが出来たのでしょうか。

コーチの存在が大きかったと評判になっています。大坂選手は自分自身の自己分析で「テニスのプレーに関しては完璧主義者である」ため、試合中のミスを引きずって、そこからメンタルが崩れてしまいプレーも崩れていくことが度々あったそうです。コーチは練習の段階から「君は大丈夫。問題ない。」と大坂選手を励まし<sup>はげ</sup>、試合に関しても前向きな言葉をかけ続けたと言われています。

全米オープンの決勝戦では、コーチの言葉を反復しながら、1つのプレーに集中し、相手をリスペクト(=尊重)しつつ、テニスボールを追い続けた結果が、最高の形で実ったのでしょ。心の持ち方がとても大切だと感じるエピソードですね。

よくものの見方や考え方で使われる例として、「半分水が入ったコップ」が取り上げられます。「まだ半分水が残っている」と捉えるか、「もう半分しか水が残っていない」と捉えるかで、「半分水が入ったコップ」の意味が違ってきます。物事の客観的な事実は一つでも、感じ方で意味が変わってくるのです。

今年度の学校生活はちょうど折り返し地点を迎えました。6ヶ月しか残されていないと暗い気持ちになるか、まだ6ヶ月あるから頑張ろうと思うかは、心の持ち方にかかっているでしょ。

究極のポジティブシンキング(=前向きな考え方)で、三中生のみなさんには日々の生活を過ごして欲しいと思います。

# 全国学力学習状況調査の結果を分析する

4月17日（火）に3年生を対象に実施された全国学力調査の結果が来ましたので、数値から見える三中の課題等について考察しました。国語、数学、理科の調査がありましたが、ここでは数学に絞って3年間の比較をもとに分析します。数値は全て「%」を表したものです。

まずは、正答率から。「数学A」は、主として「知識」に関する問題で、30年度は36問出題されました。一方、「数学B」は主として「活用」に関する問題で、Aで出題されたような知識を使って、表や図、文章などの情報からじっくりと答えを導き出す問題であり、30年度は14問出題されました。解答時間は、ともに45分間です。

数学A	28年度	29年度	30年度	数学B	28年度	29年度	30年度
平均正答率(三中)	53.2	64	61	平均正答率(三中)	32.8	42	40
平均正答率(都)	63.5	74	67	平均正答率(都)	45.8	50	49
都との差	-10.3	-10	-6	都との差	-13	-8	-9

上表のように、数学Aでは都との差が少しずつ縮まっています。逆に、数学Bでは、昨年度よりも1ポイント差が広がってしまいました。

しかし、次の表を見てください。

数学A	28年度	29年度	30年度	数学B	28年度	29年度	30年度
A層	14.5	15.9	17.3	A層	19.1	18.6	26.1
B層	22.8	18	23.8	B層	17.8	22.7	14.7
C層	28.5	31.3	30.4	C層	22	28.7	28.3
D層	34.2	34.8	28.5	D層	41.1	30	30.9

これは、「四分位数<sup>しぶんいすう</sup>」という統計処理の仕方で、全国の数値をもとに、上位から4分の1ずつの層に分け、それぞれの層に属する三中生の割合を示したものです。例えば、30年度数学BのA層は「正解が14問中の9問以上」であった層を表しています。ここで、正答率の比較では見えなかったことが見えてきました。数学BのA層の増加です。29年度と比較しますと、B層の生徒がより上位のA層に移っているわけで、この層の増加はよい傾向だと言えます。また、数学Aも、D層の割合が減少しているのは喜ばしいことです。

まだまだ都との差はあるものの、30年度は基礎的な知識・技能を身に付けた生徒が多くなっており、またそれらを活用できる上位の層も増えてきていることがわかります。

では、これらの向上は、何に起因するものなのでしょうか。

同じ調査の、「生徒質問紙」の数値から考えてみます。

まず、数学の勉強への意欲です。

数学の勉強が好き	1	2	3	4	→	1	2	3	4
28年度	30.8	22.7	22.7	23.3		1	あてはまる		
29年度	33.1	23.2	21.2	22.5		2	どちらかといえば、あてはまる		
30年度	30.4	29.8	22.7	17.1		3	どちらかといえば、あてはまらない		
30年度 都の平均	27.8	29.4	24.7	18.1		4	あてはまらない		

「数学の勉強は好きですか」という質問に対し、60%以上の生徒が高評価をしています。逆に、「あてはまらない」と答えた生徒は減少しました。

次に、授業の理解度は、どうでしょうか。

数学の授業がよくわかる	1	2	3	4	→	1 あてはまる			
28年度	27.3	39	19.8	13.4		2	どちらかといえば、あてはまる		
29年度	29.8	35.8	16.6	16.6		3	どちらかといえば、あてはまらない		
30年度	31.5	37.6	19.9	10.5		4	あてはまらない		
30年度 都の平均	28.7	43.8	20.3	7.1					

「数学の授業はよくわかりますか」という質問に対し、「あてはまらない」と答えた生徒は、やはり減少しています。

最後に、授業以外の学習時間。平日の、塾や家庭教師に教わる時間も含めたものです。

授業以外の学習時間	3時間以上	2～3時間	1～2時間	30分～1時間	30分未満	全くしない
28年度	6.4	15.1	27.9	19.2	16.3	15.1
29年度	11.9	27.2	22.5	17.9	8.6	11.9
30年度	15.5	23.2	31.5	11.6	9.4	8.8
30年度 都の平均	12.5	27.2	31.6	14.6	8.1	5.9

確実に学習時間が増えています。昨年度、家庭での学習習慣を付けるために「家庭学習記録ノート」を書くことを継続しましたが、その効果もあるのでしょうか。

以上、「生徒質問紙」の3つの数値と、A層の増加やD層の減少などに見られる向上には、明らかに相関関係があると考えます。

学校としましては、今後も「よくわかる」授業づくりとともに、次のような具体策をおこなっていきます。

- ①数学の授業の中で、既習事項を演習する時間を適宜設定し、スパイラル式に反復することで確かな学力の定着を図ることを継続する。
- ②補充指導として、放課後自習教室や学習教室への参加を呼びかける。→C・D層の底上げ
- ③発展指導として、発展的な内容の課題をプリント等で実施する。→A・B層を増やす

6月から始めた「自習教室」は、家庭よりも学校の方が学習に集中できると考える生徒のために開設しました。先日の中間考査前には、最大で50名近くの生徒が参加しています。「学習教室」は、9月から3年生を対象に数学4名、英語12名が受講し、講師の支援を受けながら基礎の内容の問題練習に取り組んでいます。

これらは、学校での「学びの場」の充実を意図したのですが、家庭における学習環境の整備という点で、保護者の皆様にぜひご協力をお願いしたいことがあります。それは、スマホ等の利用を制限することです。

下の表は、「普段、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか」という質問の回答状況です。（30年度の調査には、この質問がありませんでした。）

スマホ等の利用時間	4時間以上	3～4時間	2～3時間	1～2時間	30分～1時間	30分未満	持っていない
28年度	18.6	15.1	13.4	20.9	7.6	11.6	12.8
29年度	19.2	11.3	15.9	21.9	13.9	9.9	7.9
29年度 都の平均	10.4	9.1	14.9	19.1	17.3	18.3	10.8

都の平均と比較して、三中生が家にいるときは、相当な時間がスマホ等の利用に費やされていることがわかります。「スマホ等の長時間利用そのものが脳に悪影響を及ぼすのではないか」という調査結果もありますので（川島 隆太 「スマホが学力を破壊する」 集英社新書）、この時間を削ることが、確かな学力の定着には必須と考えます。

# 「三中日記」より 三中ホームページにて、鋭意更新中！

## 9月12日（水） 3年放課後学習教室



今日からスタートしました。12月までの全9回、水曜日の放課後を使った学習教室です。数学・英語の基礎の定着を目的としています。初日は、数学4名、英語11名が参加しました。講師は、それぞれ2名ずつつき、つまりいたところを教えてください。

さすがは3年生、1時間集中して問題に取り組んでいました。

## 9月14日（金）

### 1年 都内めぐり



朝8時頃に東大和市駅を出発し、班で都内に向かいます。浅草、スカイツリー、すみだ水族館、上野動物園などを回る予定。服装は私服です。

スローガン「持って行くものは笑顔と学ぶ心 持って帰るものは知識と思い出」のとおり、実りある体験ができたのではないかなと思います。



## 10月3日（水）

### 2年 道徳研究授業



資料「イエローカード」を使って、世の中のルールについて考えを深めるというテーマでした。東京メトロのポスターを導入を使いながら、資料についてグループで話し合ったり、集中して考えていました。

